



堆肥の原料の違いによる効果と使用上の注意

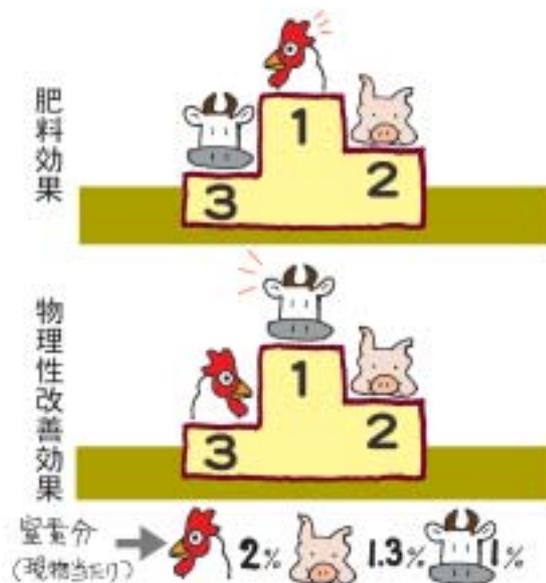
生ごみ・家畜糞・木質 こんな効果と欠点

原料は、大きく分けて、生ごみ系、家畜糞系、木質系、污泥系があります。多くのばあい、生ごみと牛糞とおがくずというように数種を混合して、微生物による分解・発酵に適した水分・養分条件にして製造されますが、主原料（肥料取締法に基づいて表示は多く使われている順）が何かで、堆肥の性質が変わってきます。

上の図に示すように、生ごみ系は養分が多く含まれ分解も早いので「肥料効果」が高い。木質系は窒素が少なく繊維などが多く、ゆっくりと分解されて腐植となるため、保水性や通気性をよくする「物理性改善効果」が高いという特徴があります。家畜糞系は両者の中間的な性格ですが、家畜糞単体だと生ごみ系のように肥料効果が高く、おがくずやパークなどの混合量が多いと、木質系に近い性質になります。

家畜糞堆肥のうちでは、一般に肥料効果は鶏がもっとも高く、豚、牛の順です。いっぽう、物理性改善効果はその逆の順になります。

すでにお気づきのように、生ごみ堆肥や家畜糞単体堆肥（なかでも鶏糞堆肥）は窒素が多くC/N比が低く、木質の多く入った堆肥は逆に窒素が少なくC/N比が高くなります。このことから、上の図に示すような効果があり、その反面としての欠点があるのです。それぞれの欠点は未熟な堆肥ほど強いことに注意してください。



家畜糞堆肥 牛・豚・鶏では...